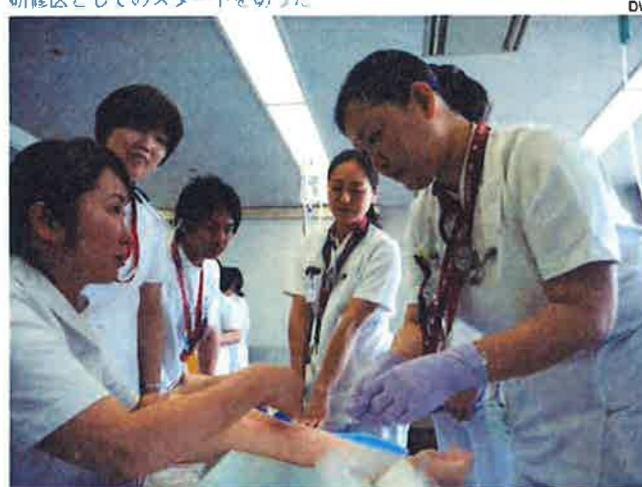


沼田るり子さん（右）らハンガリー
一国立医学部卒業生たちは、初期
研修医としてのスタートを切った



勉強部屋を無償で提供、同病院の医師も試験勉強に協力した。医師不足に悩まされる中で「うちを初期研修先に選んでもらい、頼むればこの地で医療を続けてくれれば」という期待もあった。

4月上旬 同病院の一室で採血

方法を学ぶ初期研修医と新人看護師たちの中に、沼田さんを含むハンガリー国立医学部出身研修医3人の姿があった。「生涯、地元で医療に携わっていきたい」と沼田さん。小関理事長は「海外で苦労を重ねた留学生たちは視野が広く、患者に認められる強さと優しさを持ち合わせていて」と評する。

日本の医学教育システムではふ化できなかつた卵が殻を破つた。

【脳外科は3K扱い 患者のQOLよりまず自分のQOL】

日本で医学部に入ることは、受験競争の勝ち組を意味する。しかし「数学オリンピックの金メダリストなど最高に優秀な学生が医学部ばかりに入るのももつたない。患者を診療する臨床医にそこまでの頭脳が必要だらうか」。そんな疑問を呈するのは、理学部から医学部に転向した病理医の榎木英介・近畿大学医学部病理学教室講師だ。

ストレートで入学する偏差値エリートの中には、実は医師という仕事に興味がないという者も居る。医学部に入ったのは、偏差値に見合っていたから。燃え尽きて入学後の授業に身が入らない学生が少なくない。

まさに本末転倒、宝の持ち腐れ。「優秀な頭脳は医学部ばかりでなく、多方面で活躍した方がいい

い」と榎木氏は指摘する。絶余曲折を経た転向組の方が、総じて医師の仕事に対する覚悟は強かったりする。

一度入学すると医学部生は進路変更がしくいため、よほどのことがなければ医の道へ進む。しかも大学側も大学の評判に関わる国試合格率を上げようと、国試予備校化する傾向にある（アンケート参照）。

志が低いまま国試に合格した者は、命のやりとりが少なくて、訴訟リスクが低く、激務でない診療科を志向する。命のやりとりをする場面が多い脳外科などを「3K（きつい、汚い、危険）だから」と避け、皮膚科や眼科を好む。皮膚科や眼科もがんや難病と戦う奥の深い領域だが、そうしたシビアな医療の追求よりも、美容皮膚科での開業などを夢見る。

暮らしの便がいい都市勤務にこだわるのも特徴だ。患者のQOL（生活の質）向上よりもまず、自分のQOLを確保することを重視するような医師の増加が、診療科地域における偏在の一因となつてきている。医学部の定員を増やしたこところで、偏在が解消されなければならない。

ハンガリー留学生が日本で医師になつたことは、偏差値至上主義

に対するアンケート調査結果を反映している？

A 「反映していない」が5割

【主なコメント】
「教育水準というよりも、医師国家試験予備校のようになってしまっている大学の傾向を反映している」「国試合格率が高い大学でも、臨床の場に来ると聴診器も扱えないような医師がたくさん居る」
*有効回答数1794。メドピア調査

「デイリー・ダイヤモンド」で記事番号 4051751 を入力すれば
インタビューが5月12日以降にご覧いただけます。

榎木英介氏インタビュー

医学部に入学できるのは一種の偏差値エリートに限られる。受験で挫折したハンガリー留学生たちが3月、医師国家試験に初めて合格した。本当に医師に向いているのはどちらなのか。

【第

108回医師国家試験の合否が発表された3月18日、一つの審判が下された。

ハンガリー医科大学留学は詐欺ではないのか。インターネット上の掲示板などではこの数年、医師希望者の間でハンガリー留学の話題が盛んに取り上げられてきた。「国試受験資格は与えられず、日本では医師になれない」と断じる声もあり、大学や日本人留学生を支援するハンガリー医科大事務局（HMU）、時に留学生までも説謗中傷を受けた。

海外医学部の卒業生が日本の医師国家試験の受験資格を持つかは確かにあいまいだ。卒業後に国試受験申請をしてから受験資格の有無を個別に審査されるため、6年かけて卒業したところで、受験不可を告げられることがある。

こうした不確定要因を排除するため、H MUは厚生労働省に現地大学の教育課程が基準をクリアしていることを確認した上で日本学生の募集を開始、2006年に1期生が入学した。国試受験資格は個別に審査されることに変わりはないため、ハンガリー留学の正当性を証明するには1期生の結果を得つかなかった。

昨年6月にハンガリー国立医学部を卒業した日本人1期生7人のうち、6人が日本で今回の国試を待つかなかつた。医学部を卒業した日本人1期生7人のうち、6人が日本で今回の国試を待つかなかつた。

受験に失敗した挫折組や、薬学部など他学部を卒業してから医師を目指した転向組、私立大学の高い学費が払えない金銭的な事情を抱えるケースが立つ。学費は国内私立医学部に比べて割安で、現地での生活費込みで2000万円（予備コースを含む7年間の合計）ほどだ。今年9月の入学学生からハンガリー政府による日本人向けの奨学金制度が始まる。

ただし、ハンガリー留学は「抜け道」と呼べるほど甘いものではない。入学してからが勝負であり、留第する学生の割合は日本よりもはるかに高い。

1期生22人のうち、ストレートで卒業したのは7人。3分の1は留年し、残りの3分の1はドロップ（失格）と呼ばれるほど甘いものではない。入学してからが勝負であり、留第する学生の割合は日本よりもはるかに高い。

1期生の一人である沼田るり子さんは高校3年の夏、偏差値が足りず医学部受験を諦めた。地元の茨城県にある筑波大学体育専門学群に進学して卒業。それでも医師になる夢を捨てられず再受験する壁は高く、26歳でハンガリーに留学した。大学受験程度だった英語力を鍛えながら、英語コースの授業に食らい付いた。

卒業後は、卒業生数人と茨城県に進学した。大学受験程度だった同病院の小関理事長は寮や施設で「海外に飛び込んで奮闘してきた学生に病院を活性化してほしいから」とサポートを引き受けた。小関理事長は寮や施設で「海外に飛び込んで奮闘してきた学生に病院を活性化してほしいから」とサポートを引き受けた。

1期生の一人である沼田るり子さんは高校3年の夏、偏差値が足りず医学部受験を諦めた。地元の茨城県にある筑波大学体育専門学群に進学して卒業。それでも医師になる夢を捨てられず再受験する壁は高く、26歳でハンガリーに留学した。大学受験程度だった英語力を鍛えながら、英語コースの授業に食らい付いた。

卒業後は、卒業生数人と茨城県に進学した。大学受験程度だった同病院の小関理事長は寮や施設で「海外に飛び込んで奮闘してきた学生に病院を活性化してほしいから」とサポートを引き受けた。小関理事長は寮や施設で「海外に飛び込んで奮闘してきた学生に病院を活性化してほしいから」とサポートを引き受けた。

